

第5章 まちづくりの重点課題

本町の現状、町民ニーズ、時代潮流、第4次総合計画の達成状況と課題などを踏まえ、本町のまちづくりの主要な重点課題をまとめると、次のとおりです。

1 子ども・若者を応援するまちづくり

本町は若い子育て世代の流入が続く町ですが、若者の就業の不安定化や未婚化・晩婚化、企業の子育て支援体制の遅れなどにより、少子・高齢化が進んでいます。この10年間、高齢者福祉の充実が図られましたが、次代のまちづくりを担う子どもや若者への支援が強く求められています。

若者の雇用の場の創出と再就職支援、若い世代の交流・結婚機会の充実、若い世代向けの住宅・住環境の整備、子育て支援への重点的な取組みとともに、子どもが自分自身や家族、地域、町に誇りと自信を持てるよう、家庭・地域・学校での自立に向けた教育や体験機会の充実が課題です。

2 健康・安心のまちづくり

少子・高齢化が進み、生活習慣病による中途障害者や要介護高齢者の増加が見られるとともに、年金・健康保険・介護保険制度などへ不安を感じる人が増えています。また、子どもや若者の生活習慣病予備群の増加も危惧されます。

高齢期を豊かに過ごし、安定した社会保障制度を維持するために、生活習慣病や介護予防の取組みをさらに進めるとともに、地域でお互いに助け合う、こころがふれあう地域福祉社会づくりが課題です。

3 環境にやさしい、うるおいのあるまちづくり

本町は、榛名山から利根川にかけての多様な、美しい自然・田園環境に恵まれています。急速に都市化が進むとともに、地球規模での環境悪化の影響も心配されています。

多様な自然環境の保全を図るとともに、自然を活かした体験教育や体験観光の充実、環境への負荷の少ないまちづくりによる地球温暖化の防止への寄与、公共交通網の維持・充実など、自然や地球環境にやさしい、住みやすいまちづくりが課題です。

4 住みよい、安全なまちづくり

本町は前橋市や渋川市などの都市と近接し、急速に都市化が進むとともに、無秩序な土地利用や交通事故の懸念などの問題が生じています。

秩序ある計画的な土地利用が求められるとともに、幹線道路網や安全な生活道路、賑わいのある交流拠点などの計画的な整備、防犯体制や地域防災体制の強化などが課題です。

5 魅力のある地域文化の創造

都市化・市街化の進展により、町の個性や特徴が薄らぐなかで、地域の個性・特徴を守り、創造するという視点が求められています。また、団塊世代が退職期を迎え、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の実現が進められる中で、町民の多様なグループ活動の活発化が予想されます。

地域の歴史や文化遺産などを活用し、住みよい町、住んで良かったと実感できるまちづくりをめざして、個性的な地域文化を創造していく必要があります。

6 豊かな地域産業と安定した雇用のまちづくり

都市化が進み、農地の減少が進む中で、沿道立地型の商業立地が進む一方、農業の不振が続くとともに、工場の海外移転や県下でも割高な地価により、工業立地は困難になっています。観光については、船尾滝や果樹園、よしおか温泉リバートピア吉岡などに加えて、道の駅よしおか温泉の整備などに取組んできましたが、更なる観光資源のPRなどが必要です。

企業誘致や起業による若者や女性の雇用の場づくり、新たな観光資源の発掘、観光と連携した農業や商業の振興、駒寄スマートインターチェンジの大型化による広域観光ネットワークの形成などが課題です。

7 みんなで創る、自治・自立のまちづくり

成熟社会を迎え、スポーツや趣味などのグループ活動、伝統芸能や祭り、地域福祉や教育ボランティア活動など、様々な分野で住民活動の参加意識が高まっています。また、世界同時不況からの回復が遅れ、国・地方の財政がさらに悪化する中で、地方分権への対応、雇用の創出や若者の就労・結婚・子育て支援の充実などの新たな課題への取組みが求められています。

限られた財源と職員の下で、戦略的・集中的なまちづくりの推進、町と町民・事業者の協働（パートナーシップ）による自治・自立^{*8}のまちづくりが課題です。

*8 自治・自立：「自治」は住民自治、「自立」は市町村自治（国からの権限移譲）をさしています。